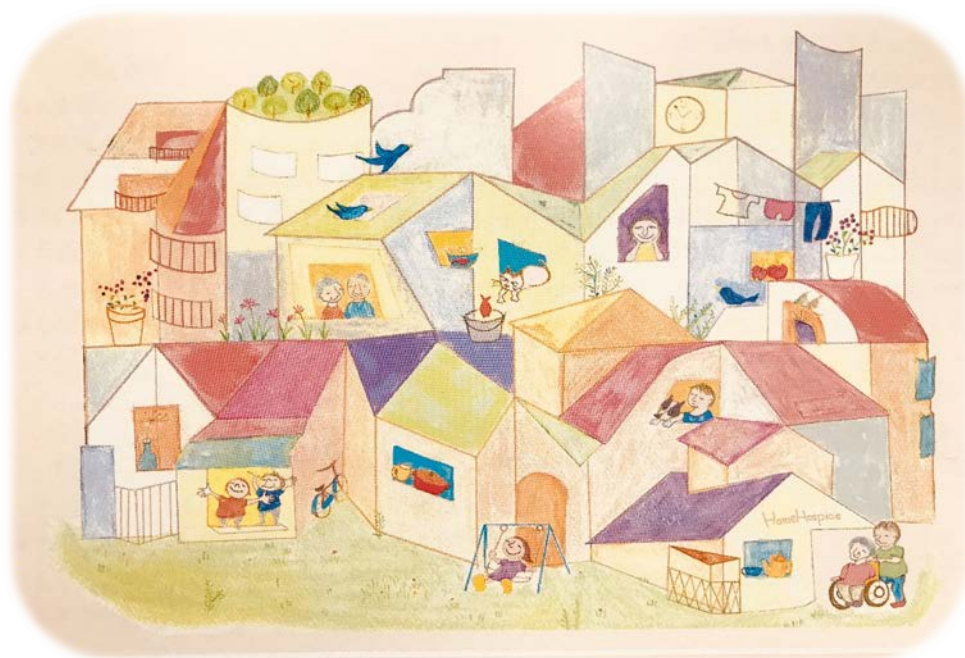


一般社団法人 全国ホームホスピス協会 社員総会

2020年11月27日(金)午後6時～
於：WEB



決議事項

第1号議案 第6期(2019年10月1日～2020年9月30日期)

事業報告書承認の件

第2号議案 第6期(2019年10月1日～2020年9月30日期)

決算報告書承認および監査報告の件

第3号議案 理事退任の件

報告事項

1. 第7期(2020年10月1日～2021年9月30日期)事業計画及び予算

1. まとめ

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスが、グローバルな世界の状況と相まって、あっという間に世界中に拡散し猛威を振るっています。今も感染が衰える気配はなく、日本でも感染者の数に神経を使う日々が続いています。4月に緊急事態宣言がだされ、日本中が命を守る為に Stay Home。これまで当たり前動いていた日常が一変し、生活も移動も自粛になりました。協会では感染予防を念頭に置いて、今年度の事業計画を洗いなおす必要に迫られました。協会の大切な事業である実践者育成塾や支部研修会、それに直接訪問するホームホスピスへの認証などが、中止やオンラインでの研修に変更になりました。

全国のホームホスピスの住人は、新型コロナウイルスに対しハイリスクの方々ばかりをケアしています。看護や介護は、密接に肌に触れ声をかけて身体感覚を使ってケアしますから、スタッフは、利用者をウイルス感染から守る、また自身が感染して持ち込まないために対策を講じながら緊張の日々が続いていることと思います。その中での家族への対応をどうしたらよいか、感染予防の物品が手に入らない等々の相談が寄せられました。各ホームホスピスでの対応の情報を提供し、またマスクなど手に入りにくい地域に、手に入りやすい地域から送ってもらうなど、マッチングしました。

そんな中、日本財団を通してメットライフ財団より「新型コロナウイルス感染拡大防止のための支援」を受けることができ、全国のホームホスピスに1軒あたり50万円の寄付金を分配することができました。助成にあたってはオンラインでの説明会をしましたが、まだWEB環境が整っていない法人も多く、今後の情報伝達の取り組みへの良い機会となりました。各ホームホスピスでは感染予防のための物品購入に充てたり、緊急雇用や休業補償への支給ができて、全国58か所のホームホスピスへの大きな励ましになったことをメットライフ生命の方々にもお伝えいたしました。

また、当会の理事である近畿大学の山口健太郎先生より「新型コロナウイルスに対する感染防止対策に関する実態調査」を全国のホームホスピスへ6月に実施、正会員43法人中37法人より回答いただきました。この中で見えてきたことは、看取りの際にはほぼすべての法人で家族の立ち合いを認めていました。ホームホスピスの基本理念である「死を単に1個の生命の終わりとして受け止めず今を生きる人につなぎ、そこに至るまでの過程を共に歩む新たな「看取りの文化」を地域に広げていく」という理念が共有されていることを実感しました。

現実的には、全国の病院や施設では、家族の面会謝絶が続いています。ホームホスピスへの相談も「面会ができますか」と家族の困惑した声が多くなりました。面会できない間に症状が悪くなっていき、そのプロセスが見えない中で看取りになってしまうこと、認知症の症状が進んで寝たきりになっていること、そして、看取りに立ち会えなかった後悔で、家族が大きな傷を残していることなどが社会問題になっています。

このような状況の中で、なぜホームホスピスが家族の看取りへの対応ができているのか、そこにホームホスピスの環境が起因しているのではないかと考えます。ホームホスピスの「住まい」は、小規模であり、窓による「換気」、適度な日光が取り込め、この環境が感染症を予防できる要因の一つではないでしょうか。コロナ感染の終息にはまだまだ時間がかかると思われます。感染予防の対策

を取りながら、住人の日々の暮らしを大切に守っていきたいと考えます。

本年度の事業の中で「ホームホスピスの基準」を見直して改訂することが計画されています。県境をまたぐ往来が自粛されている中、理事会では何度も WEB での討議を重ね、各ホームホスピスの皆様にも、写真の提供などをお願いし、7月に改訂版を発行することができました。2015年に、ケアの理念を共有し実践に基づいた手引きが欲しいと制定したものを、より具体的に実際の写真や図を挿入し、また度重なる災害への対応や組織運営についても加筆し、さらに新たにホームホスピスを開設する人にとっても道標となるような内容になりました。

第4回「ホームホスピス実践者育成塾」は、この基準をテキストにして実施しました。内容としては、実技を伴うものやワークショップのような講座は中止せざるを得ませんでした。講師の先生方のご理解を得て、8講座を実施することができました。オンラインでの研修会は、旅費の費用がかからないし、これまでは参加したスタッフのみの研修でしたが、WEBであればスタッフが揃って講義を受けることができるという利点も生まれました。今後研修会のあり様も、WEBも併用したものにしようということも検討したいと思います。

今期のレビュー（評価）は、秋田市、千葉県鴨川市、埼玉県越谷市に伺いました。しかし3月以降は実施できませんでした。自己評価に基づいて、組織運営、ケアの取り組み（現場スタッフの実際を伺いました）、地域づくりなど、基準に沿って一つ一つ確認していきました。できていないところを指摘するのではなく、どうしたら改善できるかを評価委員もともに考えていくという姿勢です。3月以降に予定されていた法人は、来期に持ち越すことになりました。

全国のホームホスピスは、今期末で正会員 43 団体、準備中の準会員 4 団体になり、建物（家）の軒数では 58 軒、準備中が 2 軒となり年々広がりを見せています。日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラムの研修を修了した方が本年度は 5 名、東京、鹿児島、北海道、福岡と、それぞれの地域で開設に向けて準備が始まっています。

そして、日本財団の研修プログラムは、本年度で終了いたします。これまでは、ホームホスピスを開設するためには、この研修を受けるということが一つのステップになっていました。しかし研修を受ける為に、一度仕事を辞めて研修に臨むことが必要で、開設したい思いはあるがなかなか踏み出せないという声を聴いていました。日本財団でも在宅ホスピスプログラムに係る「ホームホスピス実践リーダー養成研修」見直し検討委員会が開催され、新たな事業に転換することになりました。そこで協会の事業として「ホームホスピスの学校」という形でスタートすることになり、来年度は試行期間となります。ホームホスピスをつくりたいという希望を持ち、協会にも多く相談が寄せられます。できれば各県に一つのホームホスピスが地域の拠点として開設できるようになればと願って、人材育成に努めたいと考えます。

2040年度の超高齢化社会は、多死社会のピークだと言われています。今後、死亡者数は120万人から2040年には167万人に増加すると言われていたのですが、160万人死亡に対応する病床を新たに整備することはできないでしょう。高齢者の「住まい」での看取りを整備し充実するしかないと考えます。そこにホームホスピスの役割がますます重要になってくると思われ、このことも踏まえて「ホームホスピスの学校」の充実を目指していきたいと考えます。

① 評価及び認定

◎レビュー(認定審査)の実施

- ・ホームホスピスフローラファミリー
期日：2019年11月7日 内容：再レビュー(認定) 場所：千葉県鴨川市
- ・ホームホスピスクららの家
期日：2019年11月12日 内容：初回レビュー(認定) 場所：秋田市
- ・ホームホスピス晴れる家
期日：2020年1月31日 内容：初回レビュー 場所：埼玉県越谷市

*評価審査委員：高橋紘士、市原美穂、松本京子、樋口千恵子、竹熊千晶、金居久美子
園田真理子、岡本峰子

◎「ホームホスピス基準 2020」改訂版

7月完成 正団体会員、準団体会員へ配布



② 研修会の実施

◎全国合同研修会の開催

第8回ホームホスピス全国合同研修会(広島県)

開催担当：西日本支部

第1日：2019年11月30日(土) 広島市国際会議場

テーマ『「いのち」生ききる』

【内容】

基調講演 「豊かないのちの共鳴～誕生と死を超えて、共に生きる意味を問う～」

岡田 圭(ニューヨーク訪問看護サービス終末期スピリチュアルケア・プログラムマネージャー)

「日本人のためのハワイホームホスピス事情」

三浦 佳代子(Nagomi Foster Homes 代表)

シンポジウム「暮らしの中で逝くこと」

シンポジスト : 片山 壽(片山医院院長)

羽田 富美江(鞆の浦さくらホーム代表)

市原 美穂(全国ホームホスピス協会理事長)

コーディネーター：高橋 紘士(東京通信大学教授)



参加人数 260名

第2日：2019年12月1日(日) 広島市国際会議場

【内 容】

教育講演 「医療に「生活の視点」を」 迫井 正深（厚生労働省大臣官房審議官）

教育講演 「地域包括ケアシステムのまちづくり」 山口 昇（公立みつぎ総合病院名誉院長）

市民公開講演会 「ホームホスピスってご存じですか」 市原 美穂（全国ホームホスピス協会理事長）

鼎談 「いのちについて考える時間」

長尾 和宏（長尾クリニック院長）

板井 孝壱郎（宮崎大学医学部大学院教授）

宇都宮 宏子（在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス）

参加人数 450名



《参加者の感想》

- ・地域ケアという言葉が広まってきているが、実際に自分がどのように参加したらよいかかわからない市民やスタッフも多いと思うので、それぞれの年代や職種が自分のやるべきことがわかるような働きかけをしていきたい。
- ・数年前にホームホスピスを知り、初めて参加。もっとホームホスピスについての話を聴きたかった。OTとして人の尊厳を守る仕事をしたくても流れていることが現状なので、これからも勉強させていただきたい。
- ・超高齢化社会へ突入後、日本の看取り、在宅のあり方などホームホスピスのことだけではなく、日本としてどうしていくのかを考えその上でのホームホスピスの位置づけなども考える社会になった。海外と日本の状況や考え方の違いを知った。自分たちの地域の現状を知り、地域に対して少しでも力になれるようにしたい。
- ・将来、ホームホスピスにお世話になりたい。広島にも、もっとたくさんできますように！
- ・色々な学会へ行く機会があるが、このような内容の講演会は少ないと感じている。他の学会でも話してほしい。



◎各支部活動

(1) 研修会

・西日本支部研修会

2020年2月16日(日) ウィンクあいち (愛知県名古屋市)

テーマ『暮らしの中で逝く～地域とともにあるホームホスピス～』

【内 容】

「ホームホスピスって何？」市原 美穂 (全国ホームホスピス協会理事長)

「ホームホスピスみよしの家の実践報告」久野 雅子(ホームホスピスみよしの家)

パネルディスカッション「地域とともにあるホームホスピス」

宮崎 雅 (愛知国際病院部長)

小森 恵太 (株式会社ウチエト代表)

久野 雅子 (ホームホスピスみよしの家)

山口 絹 (ホームホスピスあこや)

森 正志 (ご遺族)

松本 京子 (全国ホームホスピス協会副理事長)

参加人数 230名

《参加者の感想》

- ・利用者の人生観に寄り添ってサポートしているホームホスピスで過ごされているかたの穏やかな表情の写真に癒された。ホームホスピスを作りたい思いが強くなった。
- ・考え方が人間らしいというのは、どの分野でも必要だと思った。
- ・ご遺族の気持ちがよくわかる話だった。
- ・ホームホスピスの役割がわかり、これから増えていってほしいと思う。
- ・その人らしく過ごせるような支援をしていきたいと感じた。
- ・ホームホスピスは、その人らしさ、その人の本意を尊重していると強く感じた。



- ・東日本支部研修会(秋田市) 7月を予定していたが中止

◎ホームホスピス実践者育成塾

4月【総論】5月【各論】を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言により7月へ延期、実施方法を変更することで9月開催。

期日：2020年9月12～13日

配信方法：オンライン配信

【内 容】

- 「ホームホスピスはじまりの物語」 市原 美穂（全国ホームホスピス協会理事長）
- 「ホームホスピスを支える医療とは」 山崎 章郎（ケアタウン小平クリニック院長）
- 「ホームホスピスの空間のつくり方」 山口 健太郎（近畿大学建築学部教授）
- 「老いを学ぶ」 平田 温（吉田病院附属脳血管研究所所長）
- 「暮らしを考えるケア～からだにやさしい古武術介護～」 岡田 慎一郎（理学療法士）
- 「意思決定支援における法的・倫理的視点」 稲葉 一人（中京大学法務総合教育研究機構教授）
- 「失敗しない労務管理」 高浪 賢一（高浪社会保険労務士事務所代表）
- 「2020年の高齢化社会のキーワード」 高橋 紘士（東京通信大学教授）

参加人数 92名

《参加者の感想》

- ・コロナ禍の大変な中、なかなか集まっていた研修等が行えず、残念。しかし、今回のようなウェブ上での開催をしてくださったことで、貴重な講演に参加することができた。
- ・オンラインでの研修でしたが、交通費等が掛からなく、スケジュールの調整もしやすかったので、良かった。
- ・初めての参加でしたが、とても興味深く視聴できました。意思決定支援については、今の現場でも活用できると感じた。自分の思いをもうしばらく温め、勉強していこうと思う。
- ・古武術介護はとても楽しみにしていて、すごく参考になった。今後の介護にも役に立てたい。
- ・ホームホスピスがこれからの、医療・介護において非常に重要になってくるのが今回の各講座の先生のお話しを聞き、より実感した。



③ 人材育成

◎日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラムの研修実施

2019年度

- ・今村順子（兵庫県姫路市）・・・神戸なごみの家
- ・松尾春花（東京都文京区）・・・神戸なごみの家
- ・山下初枝（鹿児島県鹿児島市）・・・かあさんの家

2020年度

- ・半澤博恵（北海道札幌市）・・・神戸なごみの家
- ・松井美嘉子（新潟県新潟市）・・・かあさんの家

合計 5名

前期より、希望者の書類選考をあらかじめ理事会で行い、面接によって研修の可否や研修先も決める方法に変更してきた。それに加えて、今期から研修途中で他のホームホスピスでの短期研修も必須として取り入れてきた。それによって、研修生は様々な環境での研修を受けることができ、課題も見え内容も深まったと思われる。

また、コロナ感染地域から研修を受ける地域への移動に伴い、赴任後の10日間の滞在を余儀なくされての実習開始となった。今後更に研修期間や時期などを検証して体系的に取り組んでいきたい。更に研修の中身を充実させるために各研修法人の指導者の情報の共有のための研修が、感染拡大のために実施できなかった。



事務研修



修了式

◎リーダー養成研修指導者会議

3月実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期

④ 開設及び拠点整備

◎開設前現地指導

- しずく（福岡県糸島市） 2019年10月6日
- 幸せのトンぼ（東京都文京区） 2020年7月27日
- ゆいたばー（鹿児島県鹿児島市） 2020年9月3日

◎拠点整備前視察

- つどいの家ほしぞら（福島県国見町） 2019年10月20日
- ホームホスピスクららの家（秋田市） 2019年11月11日

⑤ 運営にかかわる相談・基盤づくり

◎相談支援・ヒアリング

- ホームピアむつみあい（東京都足立区） 2019年10月19日
- ホームホスピス紀州やわらぎの家（和歌山市） 2020年2月7日
- ホームホスピスふさの家（大阪市） 2020年2月8日
- ホームホスピスわれもこう（熊本市） 2020年1月25日、2月10日
- ホームホスピスみよしの家（愛知県みよし市） 2020年2月16日
- 日南かあさんの家（宮崎県日南市） 2020年6月28日、7月、8月6日
- ホームホスピスもくれんの家（鹿児島県日置市） 2020年10月10日
- ホームホスピス愛逢の家（兵庫県尼崎市） 2020年10月27日

緊急事態宣言により、電話・メールによる相談支援多数



◎フォローアップ研修（在宅ホスピス実践リーダー養成プログラム未受講団体対象）

リーダー研修を受けずに事業所を開設しているホームホスピスの運営者と実践のリーダー的立場にある人が、育成塾や現場実習に参加し、単位を取得していただく「フォローアップ研修」という仕組みを設けました。

その内容は、1～2年間で100単位以上の獲得が必須（実習のみ、実習＋座学…選択可）

実習…認定ホームホスピスにて現場実習 1日8時間の実習＝10単位

座学…育成塾及び全国合同研修会への参加 1日研修の場合10単位

（例）育成塾5日間＋実習5日＝100単位

フォローアップ研修はほぼ終了し、現在、研修実施中のホームホスピスは次の1団体です。

【実施中】1団体 てんき

◎ 実践者スキルアップ研修

リーダー養成研修を履修したスタッフがいないホームホスピスからスタッフのスキルアップのための研修制度を作りたいとの要望が上がり、今期からの取組として、実践者スキルアップ研修を開始しました。これは、ケアを担っているスタッフが希望する他のホームホスピス（現在は下記の5カ所が受入機関）において2日～2週間程度、働きながら学ぶものです。

【受入機関】

ホームホスピス宮崎かあさんの家 ホームホスピス神戸なごみの家
ホームホスピス愛逢の家 ホームホスピスたんがくの家
ホームホスピスわれもこう ホームホスピスひなたの家

【研修団体及び内容】

- ・ホームホスピスふさの家
内容：ケア研修 研修場所：かあさんの家 期間：2019年10月25日～27日
- ・ホームホスピスわこの家
内容：ケア研修 研修場所：かあさんの家 期間：2019年11月1日～10日
- ・ホームホスピスもくれんの家
内容：事務研修（指導） 指導者：松本京子（神戸なごみの家） 期間：2019年11月19日
- ・ホームホスピスにじいろのいえ
内容：事務研修 研修場所：神戸なごみの家 期間：2019年11月27日～28日

◎代表者会議

西日本支部研修会に合わせて意見交換を実施

◎緊急支援

- ・新型コロナウイルス感染拡大による物品等の不足に伴い、マスク100枚、フェイスシールド5枚を団体正会員へ配布（5月7日）
- ・リーダー研修生にコロナ対策として研修前の待機宿泊費補助（2名）



⑥ 調査研究と普及

- ・ホームホスピスについての新聞掲載記事等の収集
- ・学会及び他団体からの講演・発表依頼が増え、協会理事のみならずホームホスピス運営事業者による講演、発表の報告もあった。
- ・外部ホームホスピス研究への協力「社会と災害文化研究所」（2019年11月2日）

⑦ その他の事業

◎日本財団への推薦

【新規開設】

幸せのとんぼ（東京都文京区）

ホームホスピス秋田（秋田市）

【拠点整備】

なし

◎開設

にじいろのいえ はなれ（宮城県仙台市）2020年5月

*まほろば 閉鎖 2019年3月31日

*日南かあさんの家 休止 2020年8月～

⑧ インフォメーション

◎定時社員総会

日時：2019年11月30日（土）12：00～12：40

於：広島市国際会議場

決議事項：

第1号議案 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)

事業報告書承認の件

第2号議案 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)

決算報告書承認および監査報告の件

報告事項：第6期(2019年10月1日～2020年9月30日)事業計画及び予算

◎理事会の開催

第1回理事会 2019年10月19日 場所：東京

- ・全国合同研修会

第2回理事会 2019年11月29日 場所：広島市国際会議場

- ・社員総会
- ・ホームホスピス全国合同研修会

第3回理事会 2019年12月24日 場所：福岡市

- ・レビューについて
- ・ホームホスピス実践者育成塾について

第4回理事会 2020年3月11日 場所：WEB

- ・ホームホスピス実践者育成塾について
- ・ホームホスピス全国合同研修会について

第5回理事会 2020年4月10日 場所：WEB

- ・ホームホスピス実践者育成塾について
- ・ホームホスピス全国合同研修会について
- ・新型コロナウイルスへの対応
- ・2020年度リーダー研修生
- ・ホームホスピスの基準 改訂版
- ・東日本支部研修会 中止

第6回理事会 2020年5月12日 場所：WEB

- ・ホームホスピス実践者育成塾について
- ・ホームホスピス全国合同研修会について
- ・ホームホスピスの基準 改訂版
- ・リーダー研修担当者会議
- ・開設、改築事前視察とレビューについて
- ・支部研修会・支部会議
- ・ホームホスピス全国合同研修会
- ・日本財団の支援金に対する要請

第7回理事会 2020年6月15日 場所：WEB

- ・ホームホスピスの基準について
- ・ホームホスピス実践者育成塾について（確認）
- ・全国合同研修会について
- ・ホームホスピスアンケートについて

第8回理事会 2020年7月29, 30日 場所：WEB、宮崎市

- ・日本財団との協議について
- ・改修案件、リーダー研修、レビュー
- ・たんぽぽ4号の発行
- ・ホームホスピス全国合同研修会
- ・理事改選

第9回理事会 2020年8月8日 場所：WEB

- ・リーダー養成研修に代わる研修事業について
- ・各ホームホスピスへのアンケートについて
- ・ホームホスピス全国合同研修会
- ・改修事業の進捗状況
- ・ホームホスピス実践者育成塾

第10回理事会 2020年9月24日 場所：WEB

- ・7期事業計画、予算について
- ・7期以降の研修事業
- ・全国合同研修会
- ・理事の選出(再任)
- ・レビュー、開設



◎事務局体制

事務局長：黒岩雄二、事務局：岡田瑞穂、岩切知峰

理事会記録：古野たづ子

・事務局が本格的に動き始めてから4年目になります。協会の活動と共に、業務も増えてきました。会員の管理、理事会の運営、相談対応、情報発信、研修の企画などの運営に関わる業務の他、リーダー養成研修の申請対応、レビューの調整、日本財団への助成金申請の補助等多岐にわたっています。それに伴い、事務局スタッフの増員や外部研修の受講など事務局機能の強化も図ってきました。今後も引き続き JCNE のガバナンスチェックなども導入し、組織運営の充実を図っていく予定です。

【受講研修】

- ・FRJ2020 第11回ファンドレイジング・日本（2020年9月）

◎広報活動

- ・ニューズレターたんぽぽ5号の発行
- ・ホームページ（担当：黒岩雄二）
- ・FB（担当：岡本峰子・黒岩雄二）
- ・Twitter（担当：岡田瑞穂）



☆災害復興支援特別基金

新型コロナウイルス感染防護対策支援

メットライフ財団より日本財団を通じて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための支援金をいただいた。

- ・1軒あたり50万円（人件費、物品購入費）
- ・支援対象ホームホスピス58軒
- ・オンライン説明会 6月17日 東日本支部、関東支部
6月18日 西日本支部、九州支部
- ・振り込み：8月第1週
- ・報告書提出：完了後2週間以内（期限は11月15日）



収入の部		第6期予算額	第6期決算額	6期事業報告	
助成金収入		21,910,000	21,910,000	日本財団助成金(2020年10月～2021年3月分)を含む	
会費収入		2,990,000	2,840,000	正団43正個7準団3賛44	
参加費収入		4,300,000	2,501,600	全国合同研修会、育成塾	
レビュー審査収入		800,000	200,000	10万*2カ所	
寄付収入		60,000	123,710	ホームホスピスの基準含む	
雑収入		0	30,000,115	メットライフ生命緊急支援、受取利息	
前年度繰越金		25,801,320	25,801,320		
計		55,861,320	83,376,745		
支出の部		第6期予算	第6期決算額	6期事業内容	
事業費	認及評 定び価	レビュー	1,300,000	620,384	旅費・レビュー審査日当(2ヶ所)
		ホームホスピスの基準	0	100,000	改定版
	研修会 の実施	支部活動費	2,000,000	498,576	西日本支部のみ開催
		年次大会	3,500,000	4,327,323	11/30, 12/1(広島)
		育成塾	3,700,000	1,050,818	オンライン開催
		研修会等の抄録	300,000	0	改定基準作成を優先し、抄録は作成しなかった
	人材育成	リーダー養成研修	500,000	11,750	指導者会議の会場費払い戻し手数料等
	開設及び拠点整備		500,000	246,466	開設前相談・視察
	相談・ 運営に かかわ る 基盤 づくり	相談支援・ ヒアリング	1,000,000	346,221	運営相談視察
		代表者会議	1,120,000	0	支部研修会に含む(西日本支部)
		実践者スキル アップ研修	315,000	212,350	研修者4名、指導者派遣1件
		緊急支援	600,000	594,719	コロナ支援(マスク等購入、送料等)
	感染防護対策支援		0	28,738,390	メットライフ生命緊急支援
	調査研究と普及		250,000	22,860	データ収集のための人件費、実態調査
事業費総額		15,085,000	36,769,857		
管理費	人件費		6,500,000	7,709,953	事務局給与2名・パート1名、理事会記録雑給、法定福利費含む
	家賃		840,000	840,000	事務局家賃・電話使用料
	印刷費		80,000	0	ニュースレター→決算では広告宣伝費へ
	事務用品費		200,000	37,840	事務用ソフトウェア
	消耗品費		30,000	147,314	コピー用紙・文具
	会議費		100,000	85,068	理事会会場使用料
	旅費・交通費		1,800,000	1,136,344	理事会・事務局
	通信・運搬費		217,000	74,674	切手・レターパック・宅急便・携帯電話
	業務委託費		300,000	0	社労士事務所・会計事務所費用→決算では雑費へ
	広告宣伝費(広報費)		1,500,000	1,152,960	ホームページリニューアル・名刺・ホームホスピスの周知啓発(パンフレット)
	租税公課		84,000	34,000	収入印紙、地方税
	本仕入れ高		27,000	44,000	ホームホスピスの基準50冊
	雑費		0	403,145	交際費、支払い手数料、新聞図書費含む
	減価償却費		0	635,800	パソコン、倉庫、ビデオカメラ等
予備費(予算) 繰越金(決算)		29,098,320	34,305,790	繰越金には日本財団助成金(2020年10月～2021年3月分)を含む	
管理費総額		40,776,320	46,606,888		
計		55,861,320	83,376,745		

監査報告書

一般社団法人全国ホームホスピス協会
代表理事 市原美穂 様

1. 監査実施年月日：2020年11月14日
2. 監査に供した書類：事業報告書ならびに財務諸表・帳簿・証拠書類等

監事は、一般社団法人全国ホームホスピス協会定款第38条に基づき、第6期（2019年10月1日～2020年9月30日）の業務監査及び会計監査を行った。

理事の業務執行の状況に関しては、必要に応じ第6期の理事会に出席して確認し、本日事業報告書の内容を確認した。会計については、財務諸表（活動計算書・貸借対照表・注記・財産目録）・帳簿・証拠書類等を閲覧して照合し、質問等により詳細を確認した。

その結果、理事の業務執行状況については、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、収支報告及び各帳簿は相違なく適正に執行処理されていることを認めたので報告いたします。

2020年 10月 14日

監事 岡本峰子 

第3号議案

第7期役員選出(案)

役職名		氏名
理事 会	理事	市原 美穂
	理事	松本 京子
	理事	竹熊 千晶
	理事	高橋 紘士
	理事	金居 久美子
	理事	山口 健太郎

一般社団法人全国ホームホスピス協会定款より

第5章 役員

第18条 当法人に次の役員を置く

(1)理事3名以上9名以内

(2)監事1名以上3名以内

2 理事のうち1名を理事長、副理事長及び専務理事をそれぞれ1名置くことができる

(役員を選任)

第19条 理事及び幹事は、社員総会の決議によって選任する

2 理事長、副理事長及び専務理事は、理事会の決議によって、理事の中から選任する

(役員任期)

第22条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結までとする。但し、再任を妨げない。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結までとする。但し、再任を妨げない。

第7期 事業計画書

(2020年10月1日から2021年9月30日まで)

1、事業活動方針

一般社団法人全国ホームホスピス協会として事業を開始して今期は5年の節目を迎えます。その間、ホームホスピスを運営する仲間が緩やかな連携を持ちつつ、理念の共有とケアの質の確保・向上に資するように、様々な研修の機会を作ってきました。今期は、これまでの研修やレビューなどの事業内容について見直ししながらブラッシュアップを図ってまいります。

- ①全国のホームホスピスの実態を把握するために、見学視察及びWEBを使ってのヒアリングを行い、それぞれの課題に対して相談支援を充実させていきます。
- ②開設2年以上経過している団体にレビューの機会を作り、一緒に考えアドバイスする体制を作ります。
- ③ホームホスピスを立ち上げたい方や理念を学びたい人のために「ホームホスピスの学校」を開校します。研修内容をそれぞれの研修団体の指導者と共有し、お互いに研鑽の機会を作ります。また、新規に立ち上げるホームホスピスの開設支援や相談支援、また日本財団ホームホスピス整備プログラムの申請に際して協会の推薦が必要となる等、それぞれ会員の実態に応じたサポートをしていきます。

2、事業の実施に関する事項 (次期はこのような項目を重点的に実施します。)

目的	事業名	事業内容	
① 基準 に沿って 評価 及び 認定	レビュー (評価)	開設2年以上の団体正会員	
	認定審査会	レビュー評価をもとに審査 今後の取り組みについての助言、支援	
② 研修会 の実施	全国合同研修会	「困難な時代を生きる」 2020年12月6日開催	WEB
	ホームホスピス 実践者育成塾	<ul style="list-style-type: none"> ・運営や組織、NPOとファンドレイジング (助成金や公的文書作成) や、マネジメント ・臨床倫理、ケアの哲学、悲嘆を学ぶ ・ケアの実践演習 ・ワークショップ 	3日間
	支部研修会	西日本支部 (近畿、中部、四国、広島を含む) 九州支部、東日本支部、関東支部 <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしを整えるケア ～ホームホスピスからの実例を交えて～ ・ホームホスピスの運営と組織づくり 	

<p>③ 人材 育成</p>	<p>日本財団ホームホスピス リーダー養成研修 (研修者4名) ～6か月間 指定ホームホスピスにて研修～ (2020年3月事業終了)</p>	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラム 受け入れ窓口 ・面接、審査 ・リーダー養成研修 指導者会議 	
------------------------	--	---	--

目的	事業名	事業内容	
③ 人材育成	2021年度 ホームホスピスの学校 ～単位制～	2021年4月～ ・オンライン講義と現場実習・事務研修・育成塾を組み合わせたプログラム ・ホームホスピスを立ち上げたい人、理念(ホームホスピスマインド)を学び、ケアに活かしたい人を対象 【講義】(オンラインまたはビデオ研修) ・ホームホスピスの基準に沿ったケアの実践と運営 【実習】(指定ホームホスピスでの実習) ・ホームホスピスの基準に沿ったケアの実践 【事務研修】(協会事務局にて講義・演習) ・組織や運営について ・開設相談に乗りながら、立ち上げまでをサポート	
④ ホームホスピス 開設支援及び 拠点整備	開設と拠点整備	・建物のチェック ・運営協力体制の確認 ・地域との関係づくり・運営などのガバナンス ・現地視察 ・法人設立支援及びアドバイス ・物件環境確認 ・開設記念事業への協力	
⑤ 運営にかかわる 相談及び基盤づくり	相談支援 現状把握のためのヒアリング	・運営や事務、経理等のアドバイス ・地域との関係づくり	
	代表者会議 (事務局・事務担当者) *4ブロックに分けてネットワークをはかる。	・組織力を高める ・運営体制の強化	各支部 事務担当者
	実践者スキルアップ研修	ケアを担っているスタッフのスキルアップを図る為に、 他のホームホスピスや協会事務局で学ぶ	
	緊急支援	・現地視察 ・災害支援	
⑥ ホームホスピスの 調査・研究 と普及	講師派遣	・他団体主催事業での講演	
	研究論文・記事等の とりまとめ	・各種調査及びデータ収集 ・論文等の保管	
⑦ 組織運営 (事務局)	社員総会の開催 理事会の開催	・業務執行の決定と監督 ・議事録の作成	
	会員管理	・入会にあたっての理事会の承認 ・会費の確認 ・賛助会員の呼びかけ	
	商標登録運営管理	・認定証の発行 ・無断で使用できないことを告知	
	広報	・ホームページの充実 ・協会ニュースレター(たんぼぼ)の発行 ・協会パンフレット製作	
	経理業務	・会費、助成金の管理	
特別基金 災害復興支援	新型コロナウイルス 感染防護対策支援 (2020年6月～2021年3月)	メットライフ財団より日本財団を通じて新型コロナウイルス感染拡大防止のための支援 ・支援対象ホームホスピス 58 軒 ・事務局による監査 4 団体 ・メットライフ CSR 月間 オンライン講演 10 月	基金分配 は、第 6 期 に実施

第7期予算

2020年10月1日～2021年9月30日

収入の部		第7期予算額	第6期予算額	増減差額	第6期案	
助成金収入		24,550,000	21,910,000	2,640,000	日本財団助成金(2021年10月～2022年3月分)含む	
会費収入		2,990,000	2,990,000	0	正団43 正個7 準団3 賛50	
レビュー審査収入		800,000	800,000	0	10万*8カ所	
研修参加費収入		2,000,000	4,300,000	△2,300,000	全国50万、育成150万	
ホームホスピスの学校受講料収入		900,000	0	900,000	6万*5名、2万*30名	
寄付収入		10,000	60,000	△50,000		
雑収入				0		
前年度繰越金		34,405,790	25,801,320	8,604,470		
計		65,655,790	55,861,320	9,794,470		
支出の部		第7期予算額	第6期予算額	増減差額	第6期案	
事業費	及び評価 認定	レビュー	1,300,000	1,300,000	0	旅費・レビュー審査日当
		ホームホスピスの基準	0	0	0	
	研修会の 実施	年次大会	2,000,000	3,500,000	△1,500,000	12/6WEB YouTube制作配信
		支部活動費	2,000,000	2,000,000	0	50万×4支部(九州・西日本・東日本・関東)
		育成塾	2,500,000	3,700,000	△1,200,000	3日間宿泊研修
	育成材	ホームホスピスの学校	3,500,000	500,000	3,000,000	YouTube制作、講師・実習受け入れ団体謝金、旅費、現場実習団体指導者会議、チラシ制作
		開設及び拠点整備	500,000	500,000	500,000	開設前相談・視察
	相談・基盤づくり 運営にかかわる	相談支援・ヒアリング	1,000,000	1,000,000	500,000	運営相談視察
		代表者会議	1,120,000	1,120,000	0	会議運営・旅費 28万×4支部
		実践者スキルアップ研修	315,000	315,000	0	4.5万×7
		緊急支援	600,000	600,000	0	災害時支援(人材派遣旅費、送料等)
	調査研究と普及		250,000	250,000	0	データ収集のための人件費、実態調査
	事業費総額		15,085,000	14,785,000		
	管理費	人件費	6,500,000	6,500,000	0	事務局給与2名・パート1名(社保含む)、理事会記録雑給
家賃		840,000	840,000	0	事務局家賃・電話使用料	
事務用品費		50,000	200,000	△150,000	事務用ソフトウェア	
消耗品費		30,000	30,000	0	コピー用紙・文具	
会議費		100,000	100,000	0	理事会会場使用料	
旅費・交通費		1,800,000	1,800,000	0	理事会・事務局	
通信・運搬費		217,000	217,000	0	切手・レターパック・宅急便・携帯電話	
業務委託費		0	300,000	△300,000	7期予算では雑費へ	
広報費		580,000	1,500,000	△920,000	ホームページ更新・名刺 ホームホスピスの周知啓発(パンフレット)	
租税公課		84,000	84,000	0	収入印紙・地方税	
書籍仕入れ		0	27,000	△27,000		
雑費		400,000	0	400,000	交際費、支払手数料、新聞図書、業務委託等	
減価償却費		500,000	0	500,000	倉庫、パソコン、撮影機材等	
予備費	39,469,790	29,478,320	10,371,470	日本財団助成金(2021年10月～2022年3月分)含む		
管理費総額		50,570,790	41,076,320			
計		65,655,790	55,861,320	10,174,470		

